

# 都立高校の魅力向上等に係る懇談会専門部会

---

## 第三部会（第2回）

令和8年9月7日

**1** 第一回専門部会の振り返り

**2** 産業教育

**3** 高大連携

**4** 部活動

# 1

## 第一回専門部会の振り返り

---

# 第1回専門部会の振り返り

- 戦後の学校教育法制定により、食糧増産や復興産業の技能者養成、企業事務職員養成など、社会のニーズに対応した農業科・工業科・商業科等の専門高校が設置され、地域産業を支える人材育成基盤を形成
- しかし、戦後80年が経過した現在、時代とともに変化する産業構造に加え、AI等の技術革新により、我が国を取り巻く状況は大きく変化している状況
- ➡ 全国の産業人材の不足と地域経済の縮小が進む中、首都である東京において、どのような産業人材を育成していくか等を議論

## 各委員からの発言(概要)

### ○ 社会状況を踏まえた産業人材の在り方

- 現在の産業構造や短期的な人材需要に合わせるだけでなく、今後生まれる未知の課題や産業にも対応できる人材を育成する視点が重要である。
- 農業、工業、商業といった従来の産業区分に捉われず、生徒が解決したい社会課題や関心を起点として、分野横断的に学ぶことが求められている。

### ○ 学びの内容

- 専門知識や専門技術の習得に加え、今はない問いを想像する力、他者と協働する力、異なる分野をつなぐ力など、数値化しにくい資質・能力の育成が必要である。
- 「農業」や「工業」に対する生徒のイメージが旧来型にとどまっており、最先端の産業の姿を伝えていく必要がある。

### ○ 産業界・地域等との連携

- 企業等が抱える現実の課題に触れ、試行錯誤できる環境を整えることで、社会における自分の役割や可能性を実感できる。
- 生徒が地域住民や企業等と接点を持ち、販売・企画・探究・プロジェクト活動等に取り組める場を設けることが有効である。

## 2 産業教育

---

# 各産業が担う機能の変化（農業・工業・商業）

- 農業においては、トラクター等の普及による機械化に始まり、現在ではスマート農業やバイオサイエンスなど、工業的な要素を取り込む動きが進展、今後はAIロボティクスによる完全自動生産化が見込まれる状況
  - また、工業においては、機械加工による精度の追求に始まり、現在ではAI・ロボット等の先端技術の活用が進み、扱う技術が一層高度かつ複合的なものへと移行、フィジカルAIの導入拡大とともに高付加価値化
  - 加えて、これらを支える商業においても、卸売・商社が担ってきた取引の仲介に始まり、現在ではECやキャッシュレス、データに基づく需要予測など、各産業の事業活動に組み込まれる形へと移行
- ⇒ 農業は範囲の拡大、工業は技術の深化、商業は業種を超えた横断的な機能へと役割が変化



都立専門高校では、これまで、**農業高校でのスマート農業、工科高校での先端技術教育、商業高校での実践的なビジネスの学び**などを展開してきたが、今後の社会の変化を想定して、不断に改革をしていく必要

# 今後の農業教育に取り入れられるべき視点

- 大消費地でありながら農地が限られる東京では、狭小地・屋内での生産や省力化が特に求められており、限られた条件の下で生産を支える技術や知識の習得が重要
- 「スマート農業」や「バイオサイエンス」など、他分野の技術との融合により拡大した農業高校の学びの内容について、先端技術の進展と都市農業を取り巻く環境変化を踏まえ、今後の学びの在り方を整理する必要

## スマート農業

- 人工光型植物工場により、天候や面積の制約を受けない安定生産・省スペース生産を体験し、都市部で成立する生産方式を学習
- センシング機器やスマートグラス等により、環境データの計測や遠隔からの栽培指導ができる学習環境を整備

【人工光型植物工場】



【センシング機器】



【スマートグラス】



## バイオサイエンス

- 大学の教授等が、都立専門学科高校において専門器材を活用した講座(Tokyo Labo Baseプログラム)の実施により、生徒のバイオサイエンス分野への興味・関心、学習意欲を高める機会を提供

【園芸作物の茎頂培養(例)】



- 都市部では宅地化等による農地の減少・分散が進み、限られた空間で生産を成り立たせる省スペース化が求められる状況
- 植物工場や環境制御など、狭小地・屋内でも活用可能な技術の実用化が進み、担い手不足に対応した省力化も進展

- 気候変動による収量低下リスクや食料安全保障、生物多様性保全への関心が高まり、食料・環境を巡る課題への対応が求められる状況
- ゲノム解析、組織培養・遺伝資源保存技術が進歩し、バイオテクノロジーの活用が農業・食品・環境分野等へ拡大

### 都市農業に対応する学びの提供

植物工場など、省スペースで生産できる技術を学ぶ機会の提供が必要  
スマート農業技術に対応する人材の育成  
データ等の読解力、生産性向上・効率化につながる力の育成が必要

### 技術進展に対応できる人材の育成

実験技術の習得に加え、データ活用や研究的思考、倫理観の育成が必要  
技術進展に対応する学習機会の提供  
技術の進展を踏まえた学びの充実、大学等の高度な研究との連携の必要<sup>7</sup>

# 今後の工業教育に取り入れられるべき視点

- AIとロボティクスが融合する「フィジカルAI」の登場等を踏まえ、工科高校では、先端技術の活用に加え、複雑化する都市インフラの維持・更新に対応できる分野横断的な人材育成の観点から、今後の学びの在り方を整理する必要

## AIや先端技術を活用した人材育成

- AIロボティクスを活用したSIerの育成等、専門的な知識・技術を習得
- 設計、加工、制御、プログラミング等の実習を通じ、ものづくりや社会基盤を支える力を育成

【ロボットを活用した実習】



【ドローン実習】



【3D CAD実習】



## 都市インフラの維持・更新に対応できる人材育成

- 機械、電気、建築、設備等の小学科ごとに専門的な知識・技術を習得
- 建設業等の企業連携や課題研究等を通じて、学科の専門性を生かした実践的な学習を実施

【企業現場での実習風景】



【建設現場の見学会】



現在の取組

社会状況の変化

- 設計・製造・検査・保全等の各工程でAI・データ・ロボットを一体的に活用する動きが進展
- 製造業や建設業の人手不足・技能継承の課題を背景に、自動化・省人化のニーズが高まるとともに、AIやデータを活用して現場の課題を解決できる人材への需要が増加

今後の課題

### 先端技術に対応した教育内容の高度化

AI・データ活用を専門教育と結び付け、設計・製造・保全やBIM／CIM等に対応する学習内容の充実が必要

### 実習環境の高度化

AI・ロボット・センシング等を活用した実習環境の整備が必要

### 都市インフラを共通テーマとした学びへの発展

各小学科の専門性を維持・深化しながら、都市インフラの整備・維持管理・更新・防災等を共通課題として学ぶ教育内容への転換が必要

### 学科横断型PBLの充実

異なる専門分野の生徒が協働し、実社会の課題解決に取り組む学習機会8の充実が必要

# 今後の商業教育に取り入れられるべき視点

- 商業の学びは、一つの専門分野の枠内にとどまるものから、生産や技術の現場と結び付いて各産業の事業を支える共通の基盤へと広がっており、こうした変化を踏まえて、今後の学びの在り方を整理する必要

## 農業分野と連携したビジネスの学び

- 大学の農学部等と連携し、「農業×商業によるビジネス創造」をテーマに、栽培から販売・広報までを一続きで学ぶ機会を設定
- 農業を題材に、商品のターゲット設定、コンセプト設計、価格設定、広報企画等を通じ、生産だけでなく販売まで見据えた学びを実践
- 販売実習で値付け・接客・売上管理を経験し、売上データの分析と改善提案を通じて、生産から販売までを見通す力を育成

【種まき体験の様子】



【販売・広報戦略を考える様子】



【接客・販売の様子】



## 工業等の産業分野と連携したビジネスの学び

- 「ビジネスアイデア」の授業を通じ、製造業をはじめ各方面の企業と連携し、企業から示された「解決してほしい課題」に取り組む学習を実施
- 生徒は自らテーマを選び、企業の事業や現場を調べて解決策を提案。企業の助言を受けて練り直し、最終発表にまとめ上げる学びを展開
- ものづくりやサービス等の事業の仕組みと企業の課題を商業の視点から捉え直し、企画力・提案力や発信力を育成

【企業による課題説明の様子】



【成果発表の様子】



- EC・産地直送による生産者の直接販売、キャッシュレス決済データを用いた需要予測、SNSを通じた情報発信など、販売やデータ活用といった商業の機能が各産業の事業活動に組み込まれる動きが拡大
- こうした中で、商業においても、マーケティングやデータ活用の知識・技能だけでなく、生産や技術に関する理解が求められる場面が増加

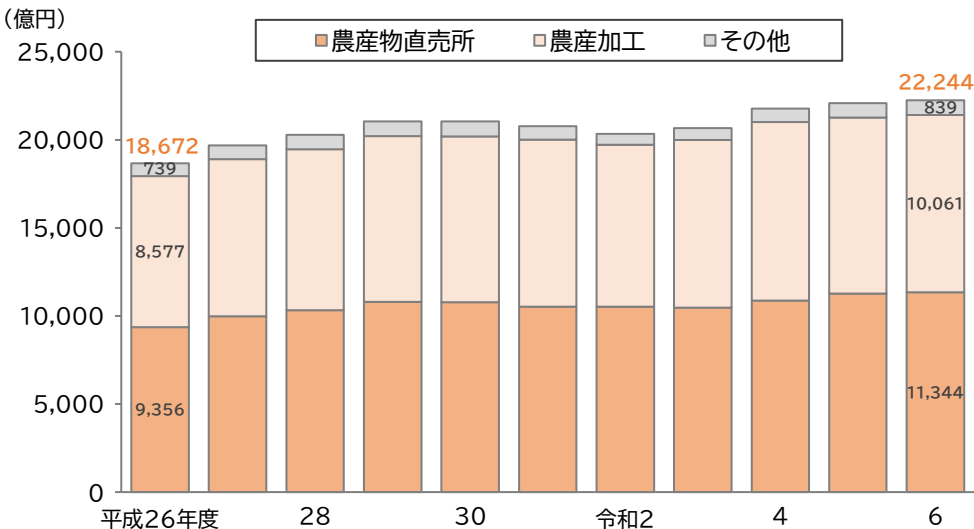
こうした変化を踏まえ、商業の学びを他の産業分野の課題解決にも生かしていく視点から、今後の学びをどのように展開させていくかを検討していくことが必要

# 分野横断の学びの必要性

- 各専門分野では、スマート農業やAI・ロボット等の先端技術の活用や、商業の知識・技能を他分野の課題解決に生かす学びの広がり等により、時代の変化に応じた教育を実践
- 一方、六次産業化に代表される、生産から加工・流通・販売・データ活用といった産業活動は、高度化・複雑化してきており、こうした状況に対応していくことが必要

## 農業生産関連事業の年間販売(売上)金額の推移(全国)

○ 農業者が生産だけでなく、加工や販売等も行う取組が拡大



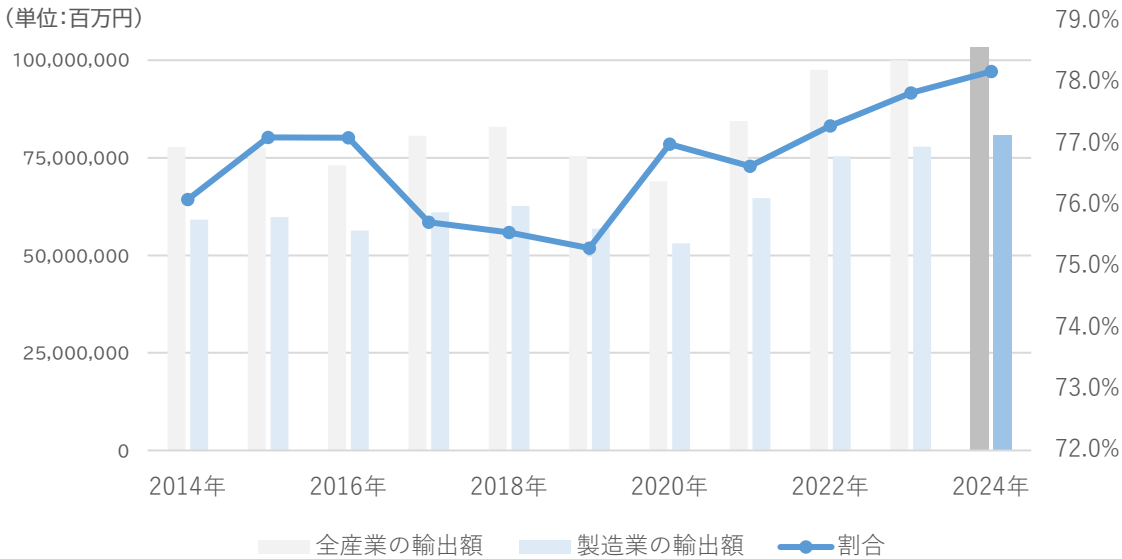
資料：農林水産省統計部「6次産業化総合調査」

注：1 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

2 「その他」は、観光農園、農家民宿及び農家レストランである。

## 製造業の直接輸出額／全業種輸出総額に占める割合

○ 製造業者が、モノを作るだけでなく、直接ビジネスを展開する動きが進展



資料：経済産業省「企業活動基本調査」

➡ 六次産業化の進展など分野を超えた取組が一層拡大し、単一学科における学びの拡大や深化だけでは対応困難な領域が拡大  
既存の学科に他分野の学びを補完的に加えるにとどまらず、分野横断を前提とした新たな教育の枠組みが必要

# 分野横断の学びの展開イメージと検討課題

- 分野を横断した学びでは、まずは基礎的な学びを積み重ね、その後、生産から販売までの一連の流れを実地で学ぶ構成とし、企業・地域と連携した実践的な学びへと移行することを想定

⇒ 分野を横断した学びの実現に向け、履修する科目の構成や企業・地域との連携方策の検討が必要  
加えて、農地や機械設備、情報機器など、分野ごとに異なる実習環境の確保が必要

## 3年間の学びの流れ(イメージ)

### 1年次

#### 分野を横断した基礎的な学び

- ・農業・工業・商業の基礎科目を横断的に履修
- ・地域の産業・企業の見学を通じた産業理解

学びの中から究めたいテーマを選択

### 2年次

#### 企業・地域と連携した実践的な学び

- ・インターンシップ、デュアルシステムによる就業体験
- ・商品開発・販売実習など生産から販売までの実践

選択したテーマに沿って専門性を深化

### 3年次

#### 課題研究による専門の深化

- ・選択したテーマに係る課題研究
- ・資格取得や成果発表を通じた地域への提案

## 実習環境

- 分野を横断した学びの実習には、農場・食品加工室、機械実習室、総合実践室など多様な場が必要であり、一定の面積や専用設備を要することから、現行校の敷地・施設では十分な規模の実習環境を確保することが困難な状況



農場実習



製麺実習



機械実習室



模擬商取引等を行う総合実践室

# 分野横断の学びの事例（他県事例）

参 考

## 福井県の取組（福井県立坂井高等学校）

### 1校で「農×工×商×家」

- 県内4校にそれぞれ設置されていた農業、工業、商業、家政系学科を一つの学校として統合し、農・工・商・家の4学科をもつ**総合産業高校として開校（H26）**
- 地域企業や金融機関と連携した探究活動を展開
- 複数学科横断のプロジェクトを実施
  - ✓ 複数学科設置の強みを生かした実践
  - ✓ 2つの学科が1つのプロジェクトに関わり、依頼者のニーズを具現化する「もの」の創造
- 産学官が一体となった「坂井高校コンソーシアム」を創設
  - ✓ コンソーシアムに参加する企業数は29社、企業訪問できる企業数は12社
  - ✓ 拠点校として県下全ての職業系高校に取組を普及、持続可能な体制を構築

### 取組例（学科間連携）

商品パッケージ作成を通して現実の課題を知る

- 学科横断の取組
  - ✓ 機械コースで、新商品のお菓子の焼印（お店のロゴ）を作成
  - ✓ 実際に試し押しをして味を確認
  - ✓ ビジネスコースでパッケージを作成
- 企業連携の取組
  - ✓ 坂井高校で梨を栽培⇒パッケージを作成
  - ✓ 製紙会社と連携し印刷コスト等を学ぶ
  - ✓ ふるさと納税の返礼品パッケージに採用

## 徳島県の取組（徳島県農工商教育活性化方針）

### 複数校で「農×工×商」

- 「徳島県農工商教育活性化方針（H27）」を策定し、6次産業化を支える人材育成に向けた取組を推進
- 「6次産業化を支える人材」の育成を目的として、一般的に垣根が高いと言われる**専門高校同士の連携を実現**
- 初年度はモデル校として農工商各1校による取組だったが、**取組は計10校3地域に拡大**
- また、農業高校のモデル校であった城西高校には、「アグリビジネス科」が設置され、農業高校でありながら、同学科には工業、商業の教員が配置され、**農工商横断でのカリキュラムを編成**

### 取組例（県南地域）

幻の柑橘類「ゆこう」をテーマに商品プロデュース

- ✓ 「阿波ゆこう」の収穫
- ✓ 新商品開発に向けてのミーティングと試食
- ✓ マーマレード製造
- ✓ 県産材「杉」を藍染めし、販売台の制作
- ✓ 「ゆこうマーマレード」販売実習

### ステップアップ

- ・ マーケティング（市場調査）の強化
- ・ 開発商品の更なる高付加価値化 等

# 産業教育に関する論点

## ○ 本日の論点

- ① 農業・工業・商業の枠を超えた分野横断の学びについて、生徒の興味・関心を踏まえながら、3年間の教育課程の中でどのように具体化するか。
- ② 分野を横断した学びの実現に向け、実習に必要な施設・実習用地をどのように確保・整備していくか。その際、農業・工業・商業それぞれの学校がネットワークを構築して相互に対応することが効果的か、あるいは1つの学校の中に様々な分野を学べる仕組みを作ることが効果的か。
- ③ これまでになかった学びを実現するに当たり、教員や外部人材をどのように活用していくことが効果的か。

# 3

## 高大連携

---

# 都立高校における高大連携について

- 大学が有する高度な教育力・研究力を生かした専門的な学びの機会を提供し、生徒の学問的探究意欲を喚起して高い志を育むとともに、高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図ることを目的として、各大学との連携を実施
- 「知」の集積拠点である大学が多く集積している東京の強みを生かし、生徒が自らの適性を知り、大学進学後の学びに結び付けられるよう、大学レベルの専門的な学びに触れる機会を創出していくことが重要

## 高大連携の目的と取組の柱

- ・ 生徒の関心分野を明確にし、研究活動等への意欲を高めるため、大学と連携した専門講義・探究学習支援・研究体験等を充実併せて、指導方法の共同開発や教育・研究交流により、教員の指導力向上と高大の連携基盤を構築

### 生徒への学びの提供

- 1 **大学レベルの専門的な学びの提供**  
大学教員による専門講義・講演等を通じた、大学レベルの専門的な学びに触れる機会の提供
- 2 **探究学習の高度化支援**  
大学の専門的知見を生かした、課題設定から調査研究・発表までの指導・助言
- 3 **研究体験の機会の創出**  
研究室での研究体験や施設見学、大学への派遣研修等による最先端の研究に触れる機会の提供
- 4 **進路意識・キャリア形成の促進**  
大学教員や学生との対話等を通じた、大学での学びと自らの進路との接続、志望の具体化

### 教員の指導力向上

- 5 **指導方法・カリキュラムの共同開発**  
大学の専門的知見を活用した教員研修、大学と共同での探究学習の指導方法等の開発・実践

### 高大の相互発展

- 6 **教育・研究交流による連携基盤の構築**  
教職員同士・学生と生徒の交流等による双方向の連携体制を構築

# 都立高校における高大連携の現状等について（主な連携事業）

## 東京都立大学

### ■ 探究学習での連携

【対象】都立高等学校の生徒

✓ 自ら課題を設定し、調査研究や発表を通して探究的な学びを深める機会を創出

・都立大学名誉教授等の指導の下、興味・関心に応じたテーマについて調査研究、討論及び発表を実施

### ■ 研究体験での連携

【対象】都立高等学校の生徒

✓ 生徒の興味・関心を深めるとともに、進路に向けての動機付けの機会を創出

・研究室で研究体験や見学を行い、最先端の研究に触れる機会を創出

### ■ 探究学習支援での連携

【対象】都立高等学校の生徒

✓ 探究学習への生徒のモチベーションを向上する機会を創出

・大学の研究成果に関する講演（オンライン実施）

### ■ 授業開発での連携

【対象】八王子東、町田高校に在籍する生徒

✓ 大学の研究リソース等を活用し、高大連携した取組を展開

・大学教員等の専門的知見を活用し、探究学習の指導方法や教育カリキュラムを共同で開発・実践

## 東京学芸大学

### ■ 教員養成プログラム

【対象】小金井北、武蔵野北、調布北、国分寺高校他、都立高等学校に在籍する生徒

✓ 教師としての基本的な素養や職業意識等を育成するとともに、その学びを大学での専門的な学びに接続

・大学教員による、教員の魅力を伝えるセミナー等の実施  
・教職大学院生による専門教科・科目のワークショップの実施  
・「チームエデュケーション」における、教育学の基礎、教育課題研究、特別講座を実施

## 東京農工大学

### ■ 農学部との連携

【対象】農業、青梅総合高校の生徒

✓ 大学レベルの研究を実地に学び、高校教育の改善・充実と継続した学びを実現

・講演会、研究発表会の実施 ・スマート農業等の体験  
・研究室見学やキャンパスツアーの実施 ・大学院生等との研究交流  
・大学教員等による課題研究に対する指導、助言

### ■ 工学部との連携

【対象】多摩科学技術、武蔵野北高校の生徒

✓ 大学の教育・研究力を生かした高校教育の改善・充実

・先端研究に関する講演会実施  
・大学教員等による課題研究への指導・助言  
・大学研究室の訪問・見学の実施  
・大学教員と高校教員による研修会の実施

## 東京外国語大学

### ■ 国際・地域研究分野での連携

【対象】都立高等学校の生徒及び教員

✓ 第一線の研究者による最先端の講義や指導を通じて、継続的な研究・学習活動を行う機会の提供と、将来の進路実現に向けた意欲を喚起

・＜生徒向け＞大学教員による、専門講義や課題探究指導の実施、「都立高校生のためのグローバル・イシュー探究講座」の実施  
・＜教員向け＞英語教育の充実に向けた教員研修の実施（CEFR・評価等）

## その他国立大学

### ■ 理工系分野等での連携

【対象】都立高等学校及び都立中学校の生徒

✓ 大学進学を目指す生徒を対象に、第一線の研究者による最先端の講義や指導を通じて、将来の進路実現に向けた意欲を喚起

・第一線の研究者による専門講義や、学生との対話を通して、大学における学びや研究への理解を深める機会を提供（大阪大学及び京都大学）

### ■ 理工系大学派遣研修

【対象】大学進学を目指す都立高等学校の生徒

✓ 北海道大学、東北大学、九州大学、関西圏大学（京都大学、大阪大学、名古屋大学）コースを設け、希望生徒を派遣  
・最先端の研究施設の見学や研究者による講義、学生との交流を通して、大学での研究への理解を深める派遣研修を実施

# 更なる高大連携が求められる背景等

- 学問の高度化・専門化が進む中、高校段階の学びを大学における高度な学修へ円滑につなげていくため、大学との連携による学びの一層の充実等を図ることが求められている状況

## ① <状況> 学問の高度化・専門化の進行と生徒のニーズ

- ・ AI・データサイエンス等の技術革新に伴い、学問分野の高度化・専門化が急速に進行
- ・ 文系・理系の枠を超えた分野横断的な学びが拡大
- ・ 大学レベルの高度で専門的な学びを求める生徒のニーズが高い状況

## ② <必要性> 高校段階の学びと指導体制の充実

- ・ 生徒の主体性や課題発見・課題解決能力等を重視する傾向を踏まえた、高校段階における探究的な学びの一層の充実の必要性
- ・ 探究学習の設計・評価や研究指導、生成AIの活用など、高度化する指導内容に対応するため、大学の専門性・研究環境や専門的知見を生かした学びの機会・指導体制の充実の必要性

更なる高大連携の強化に向けて、「生徒の学びの充実」と「大学との協働体制」の両面から取組を一層推進

- 文理融合型の学びを一層推進し、生徒が大学における高度かつ専門的な学修へ円滑に接続できるよう、高大連携による探究的な学習の充実等の取組を更に強化
- 東京都の政策形成や課題解決を支えるシンクタンク機能を担う東京都立大学との連携をより一層深化させることで、次代の東京を担う人材を一貫性を持って輩出

# 高大連携に関する論点

## ○ 本日の論点

- ① 生徒が大学の高度で専門的な学びに触れながら教科の学習や探究活動の質を高めていけるよう、大学との連携をどのように広げていくか。
- ② 高度化・専門化する指導内容に対応するため、探究活動の指導などを含めた教員の指導力の向上をどのように支えていくか。
- ③ 施設面をはじめ、生徒の学びを支える環境の充実に向けて、大学との連携をどのように進めていくか。

## 4 部活動

---

# 都立高校における部活動の現状等について

- 部活動は、スポーツ・文化・科学等に関心のある生徒が顧問をはじめとした関係者の指導の下で行う学校教育の一環であり、学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養に資する教育的意義を有する活動
- 都大会等で上位の成績を収めた学校に占める都立高校の割合は、運動部・文化部を通じて1～2割程度にとどまっており、私立高校と比較して低い水準
- 中学生等を対象とした高校進学理由に関する調査では、「部活動が盛んだから」を選択した割合は都立高校が私立高校を約10ポイント下回っており、都立高校の部活動の魅力を一層高めていく必要

都大会等で上位の成績を収めた学校に占める都立高校の割合(種目別)

## 硬式野球

6.3%

16校中 1校  
第107回全国高等学校野球選手権  
東・西東京大会(2025年夏)ベスト8進出校

## 陸上競技

14.3%

21種目中 3種目  
令和7年度 東京都高等学校総合体育大会  
陸上競技(男子)種目別優勝校

## 吹奏楽

16.7%

6校中 1校  
第65回東京都吹奏楽コンクール高校 金賞受賞校

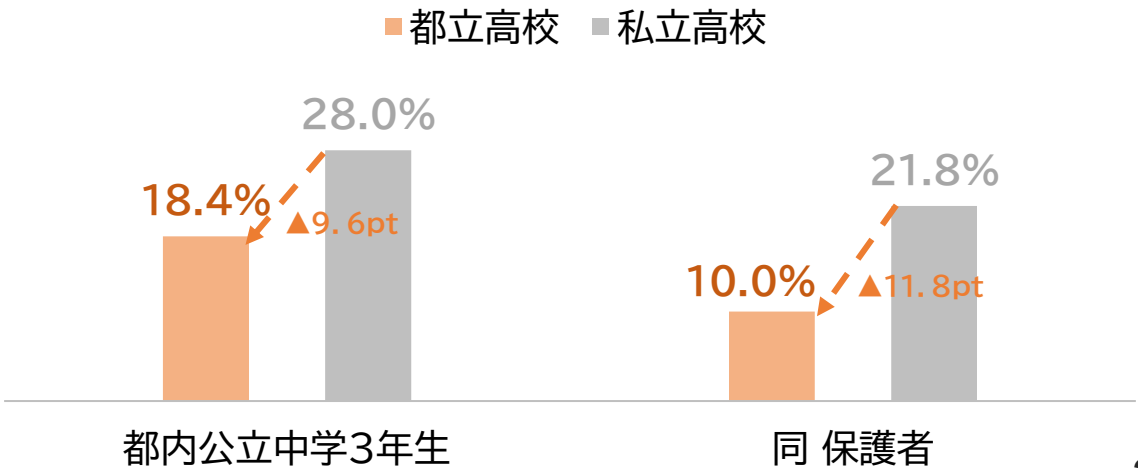
## 合唱

25.0%

12団体中 3団体  
第92回 NHK全国学校音楽コンクール 東京都コン  
クール 高等学校の部 本選出場校

高校進学理由に関する調査結果(都内公立中学3年生・保護者)

進学先の選択理由として「部活動が盛んだから」を挙げた割合は、  
都立高校が私立高校を約10ポイント下回る状況



※ 「都立高校の現状把握に関する調査(令和3年度)」より作成。

# 都立高校における部活動の特別強化プロジェクト

□ 都立高校の生徒が部活動で優れた成果をあげ、達成感を得て、将来の成長を図る事のできるよう、令和8年度から、スポーツや文化・芸術等で高い成果の期待できる部活動を厳選のうえ指定し、ソフトとハードの両面から重点的に支援

## 都立高校における部活動の特別強化プロジェクト

スポーツ及び文化・芸術等の分野において、高い成果が期待できる部活動を「Premier Club(プレミアクラブ)」として指定し、指定方法や支援内容に応じて、Tier1からTier3までの区分を設け、計画的・重点的な支援を実施

### 区 分

| 区分    | 指定方法     | 期間 | 規模  | 対象の考え方               | 中・長期目標          |
|-------|----------|----|-----|----------------------|-----------------|
| Tier1 | 都教委が直接指定 | 5年 | 11部 | プロとの連携が期待できる団体競技・分野  | 全国大会出場、関東大会上位入賞 |
| Tier2 | 都教委が直接指定 | 5年 | 10部 | Tier1に該当しない競技・分野     | 全国大会上位入賞        |
| Tier3 | 公募の上、指定  | 3年 | 33部 | 過去複数年、都大会等での実績がある部活動 | 全国大会・関東大会出場     |

### 重点的支援

#### 指導体制の充実

プロクラブ等との連携、優れた指導者の継続的配置、サポートチームによる組織的な指導体制

#### 施設・設備の整備

競技・分野に応じた施設・設備、用具・楽器等の購入

#### 活動費用の支援

外部施設を活用した練習、遠征等に必要経費の支援

#### 募集・広報の充実

広報活動等の充実、文化・スポーツ等特別推薦制度等の活用

# 都立高校における部活動の特別強化プロジェクト（指定部活動一覧）

## 指定部活動一覧

### Premier Club【Tier 1】

#### 運動部

| No. | 競 技        | 指定校      |
|-----|------------|----------|
| 1   | 硬式野球       | 城東高校     |
| 2   | 硬式野球       | 日野高校     |
| 3   | 男子バスケットボール | 東大和南高校   |
| 4   | 女子バスケットボール | 目黒高校     |
| 5   | 男子バレーボール   | 上野高校     |
| 6   | 女子バレーボール   | 駒場高校     |
| 7   | ラグビー       | 府中西高校    |
| 8   | 男子サッカー     | 東久留米総合高校 |
| 9   | 女子サッカー     | 東大和高校    |

#### 文化部

| No. | 分 野 | 指定校  |
|-----|-----|------|
| 1   | 吹奏楽 | 片倉高校 |
| 2   | 吹奏楽 | 杉並高校 |

### Premier Club【Tier 2】

#### 運動部

| No. | 競 技    | 指定校     |
|-----|--------|---------|
| 1   | 相撲     | 足立新田高校  |
| 2   | 弓道     | 東高校     |
| 3   | ローイング  | 小松川高校   |
| 4   | 自転車競技  | 八王子桑志高校 |
| 5   | フェンシング | 王子総合高校  |
| 6   | 少林寺拳法  | 国立高校    |
| 7   | 馬術     | 農芸高校    |

#### 文化部

| No. | 分 野 | 指定校  |
|-----|-----|------|
| 1   | ダンス | 狛江高校 |
| 2   | 書道  | 井草高校 |
| 3   | 演劇  | 千早高校 |

### Premier Club【Tier 3】

#### 運動部

| No. | 競 技         | 指定校    |
|-----|-------------|--------|
| 1   | 硬式野球        | 文京高校   |
| 2   | 陸上競技        | 東大和高校  |
| 3   | 陸上競技        | 国分寺高校  |
| 4   | 陸上競技        | 武蔵野北高校 |
| 5   | 体操競技        | 駒場高校   |
| 6   | 男子バスケットボール  | 大崎高校   |
| 7   | 女子バスケットボール  | 駒場高校   |
| 8   | 男子バレーボール    | 足立新田高校 |
| 9   | 女子バレーボール    | 府中高校   |
| 10  | 女子ソフトボール    | 小平西高校  |
| 11  | ソフトテニス(男女)  | 清瀬高校   |
| 12  | 卓球(男女)      | 大田桜台高校 |
| 13  | ラグビー        | 北園高校   |
| 14  | 男子サッカー      | 駒場高校   |
| 15  | 女子サッカー      | 杉並総合高校 |
| 16  | ハンドボール      | 府中西高校  |
| 17  | アメリカンフットボール | 西高校    |
| 18  | バドミントン(男女)  | 城東高校   |

#### 運動部

| No. | 競 技       | 指定校    |
|-----|-----------|--------|
| 19  | 水泳        | 駒場高校   |
| 20  | 柔道        | 杉並工科高校 |
| 21  | 剣道        | 深川高校   |
| 22  | 硬式テニス(男女) | 東大和高校  |
| 23  | ボクシング     | 府中東高校  |
| 24  | アーチェリー    | 東高校    |
| 25  | なぎなた      | 城東高校   |

#### 文化部

| No. | 分 野         | 指定校       |
|-----|-------------|-----------|
| 1   | 吹奏楽         | 豊島高校      |
| 2   | 合唱          | 府中西高校     |
| 3   | 和太鼓         | 篠崎高校      |
| 4   | 競技かるた(百人一首) | 白鷗高校      |
| 5   | 科学          | 桜修館中等教育学校 |
| 6   | 箏曲          | 東久留米総合高校  |
| 7   | eスポーツ       | 町田工科高校    |
| 8   | 書道          | 深川高校      |

# 部活動に関する論点

## ○ 本日の論点

- ① 生徒がスポーツ・文化等に継続して打ち込み、部活動の魅力と競技・活動水準を高めていけるよう、どのように取組を進めていくか。
- ② 生徒の意欲に応えられるよう、どのような指導の充実を図るべきか。
- ③ 生徒が安心して活動や大会に参加できるよう、どのような支援が考えられるか。